

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 甲斐百合子

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和 7 年第 1 回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1 新年度予算について	【趣旨説明】 本町では、町税の大幅な増収により、令和 5 年度から普通交付税不交付団体となりました。また、昨年度は町政 7 0 周年記念事業もあり積極的な予算による町政運営でしたが、令和 7 年度は、昨年度より約 4 億円減収見込みの中、人事院勧告による人件費や児童手当などの扶助費の増加、また学校給食センター施設整備などの大型事業、自治体情報システムの標準化に係るシステム改修など、新規事業や重要な施策が多く盛り込まれた予算となっていると思います。 健全な財政運営の中で、全ての町民の安心安全と幸せのために、総合計画に掲げる施策を堅実に推進する事が重要です。 糸山町長は新年度予算のキーワードを「翔」とされました。 将来を見据え大きく羽を広げ、羽ばたきゆく武豊町であるために、新年度予算について、以下質問します。 【質問事項】 ① 新年度予算として特に注目したい新規事業や重点施策は何ですか。 ② 廃止及び大きく減額された事業や施策には何がありますか。 ③ 新年度予算に特に留意された点は何ですか。

2. 町民の生活の足について	【趣旨説明】 本町のコミュニティバスは、平成22年7月から運行が開始され、以降現在まで多くの町民の生活の足となってきました。 これまでに、接続タクシー、青山駅等へのルート延伸、高齢者や障がい者への無料乗車券の交付、EV車両の導入、そして今年度はキャッシュレス決済とバスロケーションシステムの導入など。さまざまな施策により利便性が高まり、現在では高齢者だけでなく、高校生や若い世代など多くの町民の方々にも便利に使っていただいていると感じています。 しかしながら、未だ町の中心部から遠く、バス停も遠い移動困難な高齢者の方からの悲痛なお声も多くお聞きしています。 本年、団塊世代が全員75歳以上の後期高齢者となる年を迎え、今後更に移動困難者が増える事が予想されます。介護予防の面からも自分で行く、自分で選ぶ、人と話す事が大切であり、命と生活を守る上で高齢者の移動支援は喫緊の課題であると考えます。 現在のコミュニティバスは、令和4年から令和8年までの5カ年計画である地域公共交通計画に基づいて運行されています。①市街化区域内での交通サービスの確保維持、②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供、③公共交通を活用する生活スタイルへの転換、④TEAM ONE TAKETOYO 体制による総合的な移動サービスの提供、⑤時代の変化に対応した公共交通サービスの検討。これらの基本方針には、移動困難者に対する施策としては、②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供として接続タクシーがあるのみです。そう考えると、移動困難な高齢者への施策を、コミュニティバスと接続タクシーだけで補うだけでなく、福祉の視点で考えていかなければ解決出来ないのではないかと考えます。 近隣の市町では、高齢者にタクシーチケットとして助成事業を行っている市町があります。現在本町でも介護3以上の方にタクシー助成を行っており、介護タクシーでも使えるため利用者に喜んでいただいておりますが、移動困難な高齢者は、もっと多く本町に存在しています。 今後の町民の生活の足となるコミュニティバスのあり方と高齢者の移動支援のため、以下、質問します。 【質問事項】 ① コミュニティバス事業と接続タクシー事業について、どのように評価されていますか。 ② コミュニティバスについて町民からどのような要望やご意見を認識していますか。 ③ 半田市立半田病院移転による影響について、町としてどのようにお考えですか。 ④ 今後のコミュニティバスの役割について、本町としてどのようなお考えですか。 ⑤ シニアカーの購入補助に関して、検討はされましたか。 ⑥ 高齢者タクシー助成事業を、本町でも導入してはどうかと考えますが、本町のお考えはどうかですか。
-----------------------	---